

中津川市上下水道だより

下水道事業に地方公営企業法が適用されました

令和2年4月1日に公共下水道事業、特定環境保全公共下水道事業、農業集落排水事業、個別排水処理事業の4事業に地方公営企業法を適用し、新たに中津川市下水道事業として運営していくこととなりました。

これにより、会計が企業会計方式の複式簿記となり、経営状態がより明確に見えるようになったことで、将来に渡って持続可能な下水道事業運営に努めてまいります。

中津川市上下水道事業経営審議会の開催について

上下水道事業の経営健全化を目指し、有識者、公共的団体等の推薦者、住民の代表者（市内各地区代表者等）といった市民の代表で構成される審議会にて、上下水道事業の経営に関する重要事項や今後の経営の在り方について、令和元年度に引き続いて令和2年度も検討をしていただきます。

年度内に審議結果をとりまとめ、答申いただく予定です。

審議内容は市公式ホームページに掲載しています。

令和2年度当初予算の概要について

水道事業と下水道事業の令和2年度の主な予算概要を紹介します。

水道事業

- 配水管の耐震化

安全な水を安定して供給するため、市内各地の老朽管更新工事及び道路改良等に伴う水道管布設工事について、耐震管を布設します。

- リニア中央新幹線関連受託事業

令和6年度（2024年度）までにリニア関連施設へ給水するための水道施設整備を行います。

下水道事業

- 坂本処理区の下水道整備

リニア開業に向けて、令和7年度（2025年度）まで計画的に坂本下水道整備工事を実施します。

- 中津川処理区の下水道整備

青木斧戸地区の下水道管渠布設工事を実施します。

水道事業

収益的収支

収入

収入総額: 22億6,487万円

長期前受金戻入 2億8,898万円
その他 1億692万円

水道料金
18億6,897万円

支出

支出総額: 22億6,287万円

岐阜県から水
を買う費用
7億6,113万円

水道水をつくったり、
施設を維持・管理
する費用
6億5,969万円

減価償却費等
7億5,691万円

借入金の利息5,014万円
その他 3,500万円

収支差引200万円の黒字

施設は古くなっていくので、1年ごとに価値が下がっていきます。現時点における資産価値を明確にするため、耐用年数(使用期限)まで毎年計上される価値の減少に見合う見かけ上の費用になります。実際に資金が減るわけではありません。

資本的収支

収入

収入総額: 6億3,943万円

補助金2,845万円
市からの出資6,745万円

借入金
3億4,000万円

自己資金(内部留保資金)
7億5,685万円

道路工事等に伴う水道工事への負担金等 2億353万円

資本的収入額が資本的支出額に対して不足する額は自己資金から補てんします。

- 内訳
- ・過年度損益勘定留保資金 6億8,653万円
 - ・消費税の調整額 7,032万円

支出

支出総額: 13億9,628万円

水道施設を建設・更新するための費用
11億1,680万円

借入金の返済
2億7,634万円

その他 314万円

下水道事業

収益的収支

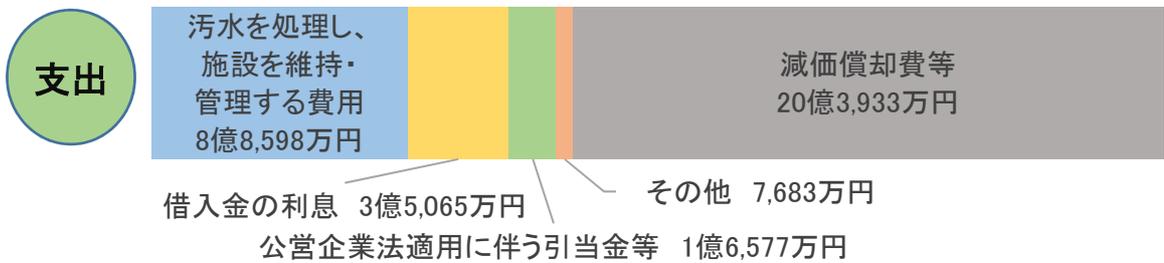
収支差引 1億7,251万円の赤字

収入総額: 33億4,605万円



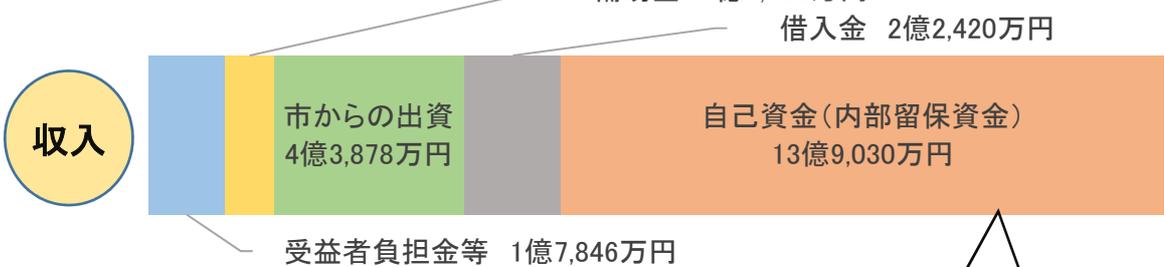
長期前受金戻入は減価償却費の財源にあたるもので、施設建設の際に収入された補助金などを施設の耐用年数まで毎年収益化するものです。

支出総額: 35億1,856万円



資本的収支

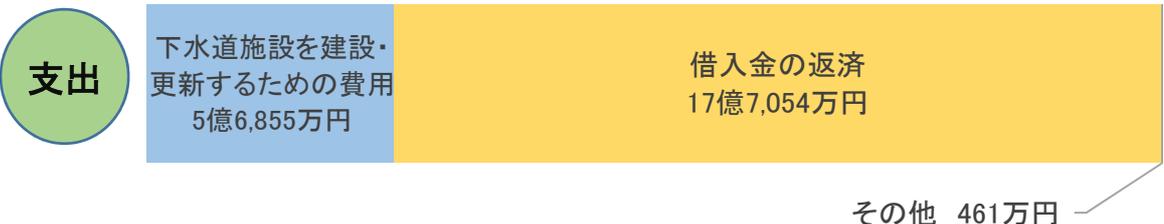
収入総額: 9億5,340万円



内訳

- 旧下水道4事業からの引継金 3億1,008万円
- 当年度損益勘定留保資金 10億6,442万円 (主に減価償却費等と長期前受金戻入との差額)
- 消費税の調整額 1,580万円

支出総額: 23億4,370万円

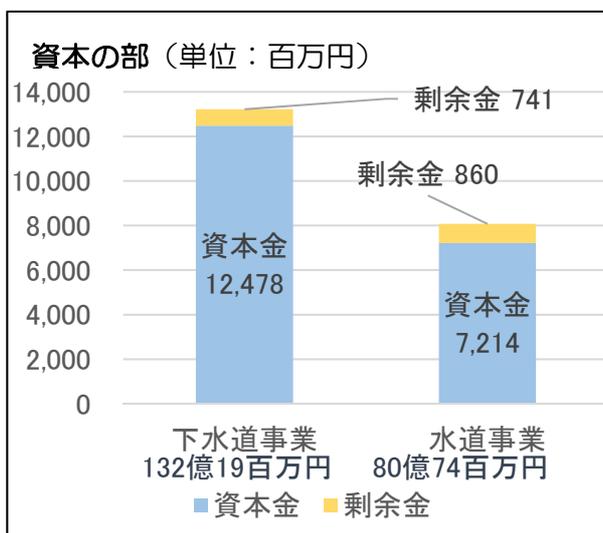
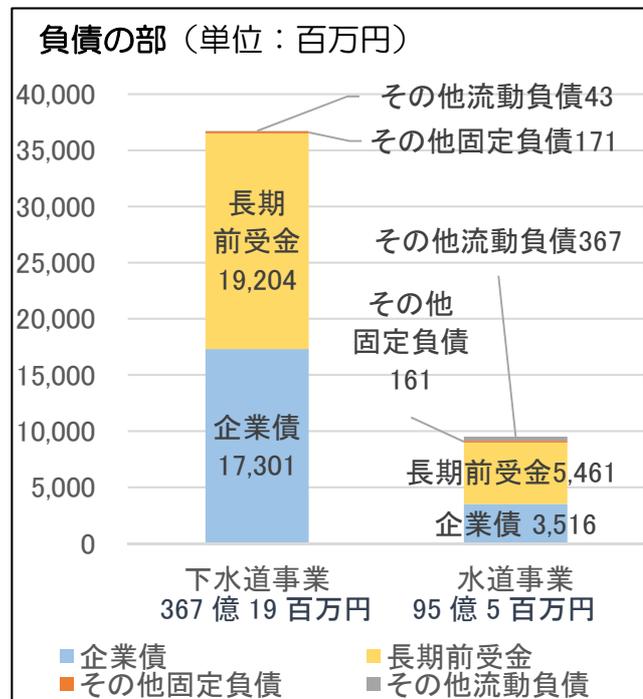
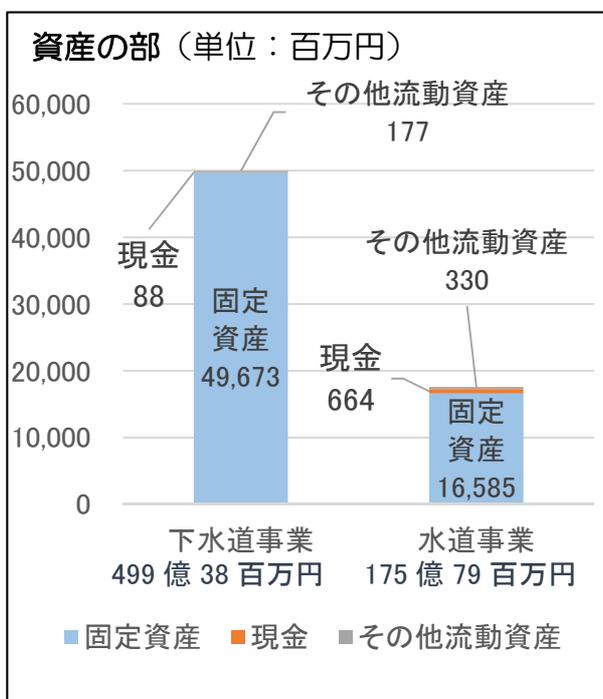


予算の詳細を確認したい場合は、インターネットの検索サイトで「中津川市 令和2年度予算」と検索ください。

上下水道事業は整備した施設を利用して事業運営（水道水を供給、下水を処理する）し、収入を得て、その収入により、施設整備・更新工事、維持管理費などのランニングコストを支払います。令和2年度も含めてリニア開業に向けての施設整備、耐震化・長寿命化事業などに多額の投資が必要になります。国などの補助事業を活用し、計画的な借入を行いながら、今後も安全安心で持続可能な上下水道事業の運営に努めてまいります。

令和2年度予定貸借対照表について

下水道事業に地方公営企業法が適用された最初の年度ということで、当初予算書に記載してあります水道事業と下水道事業の令和3年3月31日現在の財務状態を示す予定貸借対照表を次のとおり比較してグラフにしました。



下水道事業は水道事業と比較して資産の部では固定資産が水道事業の約3倍の規模、負債の部では現在も整備区域を拡張していることもあり、企業債借入が約5倍の規模となっています。令和3年3月31日時点において、1年以内に償還する必要のある企業債は18億8百万円となるのに対して、保有する現金が8千8百万円と少ないため、一般会計繰入金や企業債借入など計画的な資金調達が必要になります。